景気回復を鮮明にする
九州経済圏

児玉和久社長

「国民の生活と生命を守る」という高い志と創業40年の技術力で社会インフラを支える

ジーアンドエスエンジニアリング

九州・首都圏で展開する建設コンサルタント

ジーアンドエスエンジニアリング㈱（本社・福岡市博多区、社長・児玉和久氏）は、道路・橋梁など都市生活を支える構造物の設計を官公庁から直接請け負って、九州・首都圏で数多くの実績を残している。激変する業界で、第二の創業として社内改革に取り組む児玉氏を訪ねた。

近年、公共事業関連の予算が急激に削減されたことによって、道路や橋梁などインフラ整備を取り巻く環境は激変している。まず大手を中心にリストラが行われ、建設コンサルタント業界全体で技術者の人材不足が生じている。また、九州では、県内企業の雇用と活性化を名目に、本社を設置していないと指名に参加できない制度に変更され、大手が福岡県以外の拠点を引き上げ、結果として九州内から高度な技術を持つ技術者が減少した。

元請けとしてインフラ整備を支えてきた同社も例外なく打撃を受け、09年には関係者の誰もが倒産をうわさする事態に直面した。

倒産の危機を乗り越えて

当時、専務取締役だった児玉氏は、断固としてリストラに反対し、経営陣を含む大幅な給与削減を進言。下請けの受注に取り組んだ。その結果、翌年には業績が急回復し、倒産のうわさを払しょくした。

「建設コンサルタントは材料費等が発生せず、技術者＝人件費を減らせば経営コストを削減できますが、提供できる技術が限定されます。つまり、技術者を減らせば、技術力の低下を招き、企業の弱体化につながると考えたわけです。また、価格競争も激しくなり、社内全体で原価意識を見直し、外注を出さない内部消化型へ変えていきました」と児玉氏は当時を振り返った。

児玉氏は未経験から同社に転職し、営業の現場を転々として社長にまで昇進した人物である。技術者出身の経営者が多くを占める業界では、異例中の異例だといえよう。だが、現場を知り尽くしていたからこそ、技術者＝技術力の重要性を理解していたのだ。事実、倒産の危機からV字回復した要因は、社員＝技術者が一人も辞めず、むしろ結束力が高まったことにある。

「企業は人なりとよく言いますが、当時はその意味の重さを痛感しました。わたし一人の力など無力で、会社に多種多様な人材がいて、その結束力で組織の力は数倍にも大きくなると実感しました。だからこそ、社長になった今、人材育成と技術の伝承に力を入れています。弊社を支えてきたベテラン技術者が持つ経験と知識、ノウハウを若手に継承するため積極的に新卒採用にも取り組んでいます。業界を取り巻く環境が大きく変わっている今こそ、率先して技術者を育成する必要性を感じています」と児玉氏は技術者＝人材の重要性を強調した。

新生G&Sを目指して

同社は1973年（昭和48）の設立以来、橋梁・道路・河川・上下水道・都市計画・環境・点検調査・測量・地質調査と、元請けとして官公庁の社会インフラを支えるさまざまな設計・調査を幅広い技術フィールドで受注している。中でも、近年増えつつあるのが災害復旧や防災関連だ。

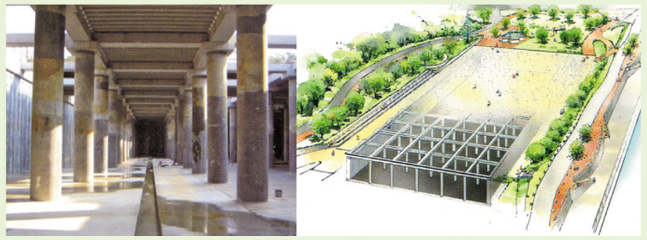
福岡市は99年（平成11）6月と03年（平成15）7月、局地的な豪雨により、市内を貫流する御笠川が氾濫し、博多駅周辺が水没するなど、市街地で甚大な水害が発生した。

同社は04年、福岡市が実施した緊急浸水対策事業で新設される「山王公園雨水調整池」（貯水量・約3万立方㍍）を受注。「御笠川沿いにある山王公園にいわゆる地下ダムを作って、氾濫する前に雨水を流し込み、水害の発生を防ぎます。また、この実績が評価され、福岡市に隣接する春日市でも浸水被害対策として同等規模の地下ダムの設計を受注し、今まさに設計をしています」と児玉氏は防災関連の一例を挙げた。そして、12年7月に発生した九州北部豪雨では、災害復旧（福岡県八女市や柳川市の山間部では多くの河川の氾濫、橋が流失し道路が寸断、被災地が孤立状態となった）の設計を担当した。技術者が地元を知り尽くしている地域密着の同社だからこそ、迅速に情報を収集し対応する事が出来た。

一方、児玉氏は業界動向をいち早く察知し、約5年前には社内に調査部を設置。橋梁などの点検・診断（補修・修繕向け）業務にも力を入れている。事実、政府は13年11月「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、インフラの戦略的な維持・管理を推進している。高度成長期以降、集中的に整備されたインフラが今後一斉に老朽化するのだ。今後20年で建設後50年以上経過する道路橋（橋長2㍍以上）の割合は、現在の約16％から約65％となるなど、重要インフラで老朽化の割合が加速度的に増加する。そのため、同社では新設されるインフラの設計はもちろんのこと、インフラの長寿命化に関する事業にも積極的に取り組んでいる。

同社は東京で創業し、その後創業者の出身地だった福岡県に本社を移転した関係で、九州・首都圏に拠点を持ち、2013年度東京都建設局長優良請負表彰により受注が拡大するなど、九州・首都圏で数多くの実績を残している。

「弊社は道路や橋などインフラ整備に欠かせない設計を行っています。言い換えると、万が一設計ミスによって重要インフラで重大事故が発生すれば、国民の安全・安心が確保できなくなります。そのため、国民の生活と生命を守るという高い志を持って取り組んでいます」と語る児玉氏は「設立から40年を数え世代交代を迎えた弊社もまさしく変革期であり、新生G&Sとして若い技術者を育てつつ明るい未来にまい進中です」とその声は自信と希望に満ちていた。


山王公園地下調整池（福岡市）下水道設計

三日月橋（福岡市）橋梁設計　橋長70.0m

104号線（東京都）橋梁設計　橋長247.0m

■ 本社／福岡市博多区東比恵3-24-9　TEL（092）481-3100　http://www.gands.co.jp

PR